

公民館だより なかがわ

第508号

令和7年2月28日
発行 中川地区公民館
TEL.Fax : 679-2501

【一般講座】

3月「春のフラワーアレンジメント教室」

日時：3月28日（金）10：00～12：00頃
場所：中川地区公民館 集会室
講師：つかさ花店さん
内容：春の生花を使ったアレンジ
持ち物：花切はさみ、持ち帰り用袋
材料費：2,500円
（つり銭のないようにお願いします）
対象：中川地区民
定員：15名程度
締切日：3月11日（火）

※昨年3月の
アレンジです。



参加者募集

出前スポーツ教室

若干名空きがあります。
公民館までお問合せ下さい。

| | |
|-----|----------------------------------|
| 日時 | 3月21日（金） 10時～11時 |
| 種目 | 太極舞 |
| 持ち物 | 飲み物 屋内シューズ ヨガマットか バスタオル |
| 場所 | 中川地区公民館 集会室 |



※令和7年度の【一般講座】は5月より開催いたします（4月の館報にて募集）

お申込み・お問合せ：中川地区公民館（☎679-2501）

3月・4月 行事予定



- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 3/4(火) 施設訪問、会長会、公民館運営協議会 | 4/1(火) 市報、館報 |
| 3/5(水) 中川食改総会 | 4/2(水) 会長会総会、協議会総会、中川地区合同懇談会 |
| 3/7(金) パソコンクラブ | 4/7(月) 子ども会育成会 |
| 3/11(火) 中川地区監査 | 4/8(火) 中川小学校、北中学校入学式 |
| 3/14(金) 会長会、公民館運営協議会 | 4/9(水) 山形盲学校入学式 |
| 北中学校卒業式、山形盲学校卒業式 | 4/10(木) 福祉村実行委員会 |
| 3/18(火) 中川小学校卒業式 | 4/11(金) パソコンクラブ |
| 3/19(水) 令和7年度新会長会顔合会 | 4/14(月) 主事部・体育部合同会議、体育部会 |
| 3/21(金) 出前スポーツ教室「太極舞」 | 4/15(火) そば打ち教室 |
| 3/25(火) そば打ち教室 | 4/18(金) 中川地区戦没者追悼式 |
| 3/28(金) 一般講座「春のフラワーアレンジメント」 | 4/22(火) 中川福祉村村議会 |
| | 4/24(木) 地区公民館職員合同会議（職員不在時間帯あり） |
| | 4/25(金) ウォーキング教室（職員不在時間帯あり） |

※4月の日程については、変更となる場合もあります。

詩吟教室（火曜日） 3/4、11、25
ラージピンポン愛好会
（木曜日） 3/6、13、27

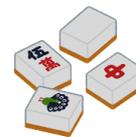
スポーツ麻雀愛好会
（木曜日） 3/6、13、27



令和7年度会員募集!



4月からスタートする各種会員を募集します
(詳しい内容は、地区回覧チラシをご覧ください。)



| 各会 | 開催月・曜日など | 年会費・参加費・その他 |
|--------------|------------------|-------------|
| グラウンド・ゴルフ愛好会 | 4月～11月・毎週月曜日 | 内容により参加費あり |
| ウォーキング教室 | 4月～10月(8月除く)・月1回 | 内容により参加費あり |
| ラージピンポン愛好会 | 通年・毎週木曜日(午前) | 無料 |
| スポーツ麻雀愛好会 | 通年・毎週木曜日(午後) | 無料 |
| 詩吟教室 | 通年・月3回 | 無料 |
| パソコンクラブ | 通年・月1回 | 無料・12名まで |
| そば打ち愛好会 | 通年・月1回 | 材料代500g500円 |

お申込み・お問合せ：中川地区公民館(☎679-2501)

【一般講座】

行ってきました!

館外講座「映画鑑賞と山形大学付属博物館」

1月28日(火)、一般講座の館外講座『映画鑑賞と山形大学付属博物館』が開催され、初めに、フォーラム山形で『雪の花～ともに在りて』を鑑賞しました。江戸時代末期、死に至る病とされた疱瘡(天然痘)から人々を救うため、実在した町医者である笠原良策(松坂桃李)は、種痘(予防接種)という予防法を普及させるために様々な困難にぶつかるが、妻の千穂(芳根京子)に支えられながらあきらめずに疫病と闘い続けるという感動のストーリーです。参加した皆さんから「良かった～」「感動した～」との声をいただきました。「山形大学付属博物館」では、主に郷土の展示物が多く、詳しい説明を受けながらじっくりと見学しました。その後、学生が行きかう構内を移動し、生協小白川食堂「テール・ポム」で昼食をいただき、普段なかなか入る機会のない山形大学で楽しい時間を過ごすことができました。



出前スポーツ教室「ミニフットゴルフ」

2月21日(金)、出前スポーツ教室2回目の「ミニフットゴルフ」が、かみのやまスポーツクラブの齋藤さん指導のもと開催されました。組み立て式のカップにボール(フットサル用のボール)を入れる競技ですが、最初は近くからカップにボールを入れる練習をしましたが、皆さんなかなか入らず苦戦していました。後半は、最初は3回でカップにボールを入れて、ゴルフのように点数を競い合うゲームをしましたが、皆さんどんどんボールが入るようになり、ホールインワンを出す方も出てきて、とても楽しい時間となりました♪



令和6年度「笑いと健康のつどい」開催!



2月8日(土)、中川地区会長会主催の「笑いと健康のつどい」が3名の講師をお迎えして開催されました。今年も館報やチラシで参加者を募り、多くの方に来ていただきました! 初めに、主催者である中川地区会長会佐藤 友治会長より、あいさつと講師の紹介が行われました。

トップバッターは、とぼけた味わいとしっかり落ち着いた話しぶりが光る、お馴染み上市市出身の、山彦亭 虎之輔 師匠の「平林」。2番目は、中川地区公民館では初めての人気・実力ともに会を代表する、笑風亭 佐と吉 師匠の「勘定板」。古典落語の滑稽噺は絶品! 仲入りを挟んで3番目は、ほんわりと滑らかな口調で聞き取りやすい声の、濃紺亭 らん朝 師匠の「寄合酒」。歌唱力抜群の素敵な歌声も披露していただきました。トリは本日2回目、山彦亭 虎之輔 師匠の「三方一両損」で、それぞれ個性豊かな話しぶりで終始会場を沸かせ、あっという間の時間となりました。笑風亭 佐と吉 師匠より、笑いは健康に良く免疫力もアップするので、面白かったら大いに笑い、面白くなくても大いに笑いましょう!! とのお話がありました。年に一度の「笑いと健康のつどい」で、たくさん笑って福と健康を手に入れ、今年1年の活力になってもらえれば! と思います。

山彦亭 虎之輔



笑風亭 佐と吉



濃紺亭 らん朝



中川地区子ども会育成会連絡協議会 反省会



2月21日(金)、中川地区子ども会育成会連絡協議会の反省会が行われ、多くの感想・意見を伺うことができました。令和6年度は、花火祭り、少年少女球技大会、しめ飾り作り、冬に遊ぶ会などに多くの子供たちが参加してくれました。会議での意見を取り入れながら、来年度もより良い事業を開催していきたいと思っております。各地区子ども会育成会会長の皆様、青少年推進員の山川さん、地域づくり推進員の武田さん、各事業にご協力していただきありがとうございました。

おらほの中川へ地域の話題シリーズ 第百九十七弾

「昭和考、問わず語り（その49）」

甲石地区 高橋 正之

当地から満州開拓に入った人たちは、東安省宝清県の入植地（蔵王郷開拓団）に入植したが、本稿では、入植地の模様について記述します。

蔵王郷の村落配置

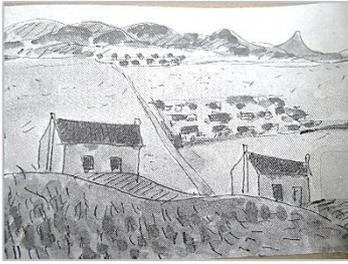
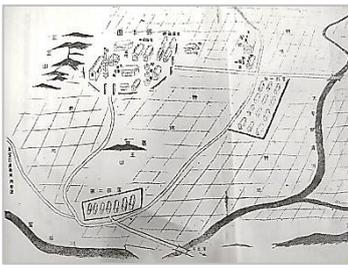
団本部は、東隣する第一次宝石義勇隊の境界となる三笠山麓高台（略図の左上）の、地区の大半が望み得る場所に設置され、本部事務所、幹部宿舎、共同宿舎、病院、共同馬房、加工場、貯蔵庫などが置かれた。

本部前の坂を下って七百坪の地点に第一部落（五十戸、略図右側の集落）があり、上山、西郷本庄、堀田、滝山、東沢、飯塚の出身者が入植した。この近くには、学校と教員宿舎を置いた。

第二部落は三十戸集落（略図の下方の集落）で、本部より第一部落を経て直線約二キロの東部にあり、宝清街道に沿った蔵王山麓を蔵王山（略図の本部と第二部落の間にある山）と呼称し、金井、南沼原、中川、宮生の出身者が入植した。

第三部落（五十戸）は、本部より直線約二キロの西北にあり、山元、本沢、柏倉門伝、村木沢の出身者が入植した。ここは、「梨樹溝屯」という百十戸の原住民部落があったが、蔵王郷入植時にはほとんど立ち退いて、わずか十数戸が残留しているにすぎなかった。

学校と病院は、煉瓦建ての本建築であったが、本部と個人住宅は粘土ブロックによる外壁と内部木造の仮建築のままであった。防寒保温に留意して



設計され、窓はすべて二重、採暖はストーブ又はオンドル（保温床）あるいはペチカ方式で、個人住宅の屋根は羊草葺きの一棟二戸建てであった。

教育機関は、在満蔵王国民学校に青年学校を併設し、教諭、訓導が配属された。昭和十九年の児童数は九十九人、青年学校生徒は三十一人であった。病院は、済生館出身の医師が昭和十六年二月に赴任し、「開拓保健団蔵王診療所」を開設した。

蔵王郷での営農の主体は畑作であるが、耕地の配分と部落の設定は、米作も併せて経営できるように計画された。耕地は一戸当たり畑地十、七ヘクタールと水田用地一ヘクタールを配分する計画で畑地造成工事が進められた。

耕作状況

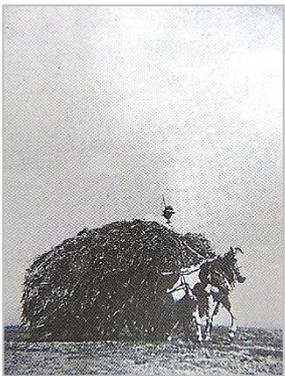
満州の米作は、まだ安定した作付品種が決まらないため試験栽培の繰り返しであった。

蔵王郷では、早生種の成績が良く坊主六号も作付したが、特に北海道の赤野毛早生種が敵地品種として有力視された。

畑作では、馬鈴薯、大根、人参等の根菜類を始め、大小豆、ささげ、高粱、トキキビ、麦などの穀類、葉菜類と良好な作柄を記録した。

経営形態は満州農法を改良習熟するまでは共同経営であったが、やがて部落経営、さらには組経営を経て個人経営に移行した。

農耕具などの設備は、組経営に移行した昭和十八年当時、各戸に耕馬と牛各一頭、他に中小家畜、プラオ一台、碎土機、畝立機、覆土機などを有した。ただ荷馬車は、二戸に一台であった。脱穀調整用機具はまだ不十分であった。静かな風の日を選んで穀類を空に放



り上げ、風でワラ屑を飛ばす風選作業や、厳寒期に地面に水を流し凍結させた上で、目隠し馬を廻らせる大豆の脱穀など、満州独特の能率的作業方式もあったという。

分郷の構成

団長以下の幹部は、郡出身者で決定すべきであったが、郡内から配置することができなかった。規定では、適任者がいない場合は、養成所から国が適任者を選任し配置していた。こうした事情から、団長には、幹部訓練を終了していた青森県八戸出身の陸軍少尉・上杉虎寿が選任された。上杉は、昭和七年、満州建国人材養成の目的から吉林省に設置された「鏡泊学園」に勤務後派遣された人で、性格温厚誠実で、責任感の強い高潔な人格の持ち主で団員から信頼された。

団員は、南村山郡から中川村出身者・上妻皆七等七戸二十五人など百三戸、三百九十六人に、山形市、東村山郡、北村山郡、最上郡、青森県、北海道からも加わり計百二十戸、四百七十八人によって構成されていた。

蔵王郷三百戸集団編成は、団員送出国が渋滞したため、昭和十九年五月、百二十戸で送出国とした。（本文及び写真は、「上山市史」下巻より。略図は、大江善松著「満州蔵王郷の記録」より。）

開拓民の悲劇

満蒙に渡った開拓民は、或る資料によれば、敗戦時三十二万三千人であった。しかし、うち無事帰還できたのは十四万人、残りの八万人弱の人びとが、昭和二十年八月九日のソ連の侵攻に際し、あるいは帰国の船を待つ収容所で発疹チフスなどのため命を落としたりと言った。

蔵王郷も送出完了した一年半後、一転して逃避しなければならぬ事態に陥る。その逃避の過程で多くの悲惨な出来事に襲われる。その悲劇的な模様については終戦直後の編で記述する予定である。

（次回は、満蒙開拓青少年義勇軍について記述する予定です。）